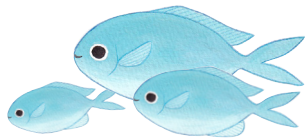


緊急連絡先

- 救急・消防 与論分遣所 0997-97-0119
- 警察 与論幹部派出所 0997-97-2803
- 海上保安庁 118 海の110番!
- 与論徳洲会病院 0997-97-2511
- 一般社団法人 ヨロン島観光協会 0997-97-5151
- 南タクシー 0997-97-3331
- 大洋タクシー 0997-97-2161



- 【発行】 一般社団法人 ヨロン島観光協会
【制作】 池田龍介、池田香菜
柳田真希、菊凜太郎
【イラスト】 市来エリ
【印刷】 (株) 大川印刷 ※環境印刷



2021年2月発行



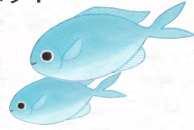
人も自然もうれしい

ヨロン島の楽しみ方

サンゴ礁に囲まれた与論島。
海はもちろん、私たちが陸で行った行動がそのまま海へ影響することがあります。

知らず知らずのうちに、このキレイな海、豊かなサンゴ礁を汚してしまった…なんてことがないように、あなたも与論島もHAPPYな旅行をしましょう！

Let's エコツアー!!

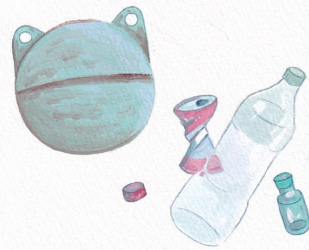


与論島での取り組み

● 海ごみ（漂流・漂着ごみ）

海や砂浜で遊んでいると、見慣れないゴミを目にするかもしれません。それらは「海ごみ」と呼ばれ、与論島の場合、その多くは海外から流れ着いています。

「ヨロン島の砂浜にはゴミが少しい」!?



ヨロン島の海がキレイなワケ

放っておけば砂浜にはどんどんゴミが溜まっていますが、与論町役場・環境課やボランティアグループの方々がほぼ毎日ごみ拾いを行っています。

● 拾い箱

自分が出したゴミを捨てる「ゴミ箱」じゃなくて、落ちていたり流れ着いた海ごみを「拾うための箱」。

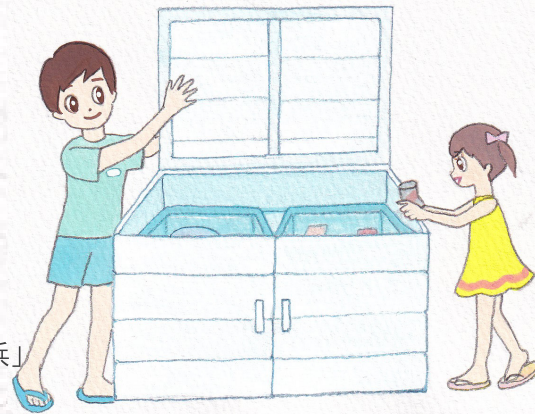
ゴミ箱じゃなくて、拾い箱

※集められた海ごみは与論町役場の環境課が回収しています。
現在、P4-5の8ヶ所に設置。

目指すは「人が来るほどキレイになる砂浜」

地球に海はひとつ。

一緒にキレイな海を守ろう！



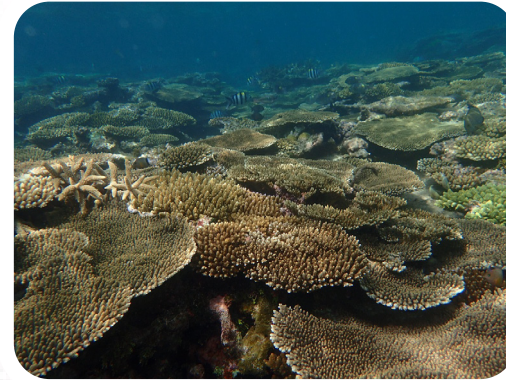
ごみ拾ったものだけ入れよう！

● サンゴの保全活動

わたしたちはサンゴ礁の恩恵を受け、生活を営んできました。

近年、世界的にサンゴ礁が衰退しつつあり、与論島でもかつてあったサンゴ礁風景がなくなりつつあります。

与論島ではそれらを次の世代に引き継ぐための保全活動が行われています。



● 文化・ゆんぬふとうばの保存

与論島には「ゆんぬふとうば」という独自の言葉があります。
(ゆんぬ=与論島、ふとうば=言葉)

言葉はその土地の大切な文化。特に島のおじいちゃん・おばあちゃんは、ゆんぬふとうばと日本語を巧みに使う素敵なバイリンガルなんですよ。

また、ジオパークや与論城跡(与論グスク)国指定への登録に向けた動きもあります。

● ヨロン島エコツアーガイド連絡協議会

豊かな自然や観光資源に配慮したガイドを目指す人々の集まり。

登録ガイドは与論島の美しい自然、歴史や文化などを未来に引き継ぐため、自分たちでルールを定め実践しています。


専門のガイドにお願いしよう！


奄美群島認定
エコツアーガイド


ヨロン島
エコツアーガイド

奄美群島国立公園区域（与論島）

※第1種・第3種特別地域と海域公園地区を抜粋

 ※主な設置場所を抜粋して掲載

 ゴミ箱ではなく、海ごみを拾うための「拾い箱」
※現在、島内8ヶ所に設置

 潮流注意ポイント

このマークのある場所は、特に潮の干潮により流れが速くなります。

その他の場所でも潮流が発生するので、安全に楽しむためにエコツアーガイドの利用をおすすめします。

万が一沖へ流された場合は、**岸と並行に泳ぎ**、流れから離脱するようにしましょう。



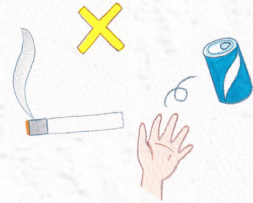
与論島を含む奄美群島は、2017年国内で**34番目の国立公園**として指定されました。

◎ 国立公園内のルール＆マナー

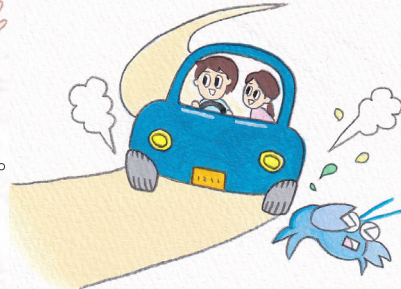
- 昆虫や動物 / 花や植物をとらない。
- 石 / サンゴ礫を持ち帰らない。
- キャンプやたき火は決められた場所以外ではしない。



- 野生動物に餌を与えないでください。
- 歩行中禁煙、ポイ捨て厳禁。



- 島の生き物にやさしい運転をしましょう。
与論島の道路にはヤドカリなどの小さい生き物も通ります。
乗り入れの可否についても確認しましょう。



- 動物の写真を撮るときは必要以上に近づかないようにしましょう。
- フィンやマリンスーツで生きているサンゴを傷つけないようにしましょう。

- 歩道から外れずに歩きましょう

道に迷うだけでなく、植物が踏み荒らされ、土が削られることによる自然環境の変化を防ぎます。



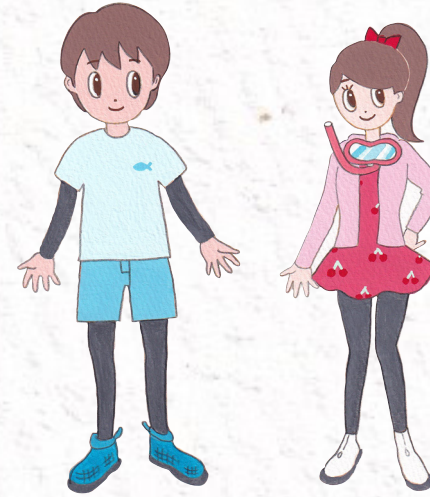
- 地域への配慮

国立公園は人の生活する場も含まれています。私有地への立ち入りや騒音、農林漁業の妨げなど、その地域で生活する人が困ることのないようにしましょう。

【海】 服装＆持ち物

やっぱり**安全第一**！ケガのないように楽しもう！

楽しい思い出をつくるためには準備が大切。しっかり備えて与論島を楽しもう！



- ラッシュガード & トレンカ

強い紫外線や危険生物から身を守るため、肌の露出はなるべく避けましょう。

綿素材は濡れると身体が冷えやすいため、化学繊維の素材がおすすめです。

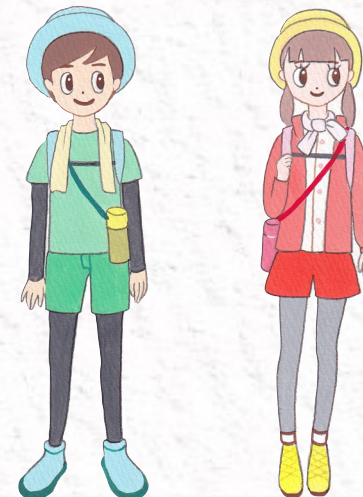
- マリンシューズ or サンダル ● 帽子
- 磯や岩場では「かかとの止まる底の厚い靴」と「軍手」を着用しましょう。

- タオル ● 水筒 ● 日焼け止め

※飲酒・二日酔いでの活動は非常に危険なので、絶対にNG！！

- マスクなど感染症対策

【陸】 服装＆持ち物



- 帽子

直射日光を避けるために必須。日焼け対策にはハット型がおすすめ。

- リュック

前で固定できる方が疲れにくくおすすめ。

- 動きやすい服を重ね着

こまめに脱ぎ着することで体温調整を。

- ロングパンツ

※ショートパンツの場合、ケガ防止のためにタイツを着用。

- トレッキングシューズ ● 手袋

- タオル ● 水筒 ● 虫よけ

⚠ 海の危険生物



カツオノエボシ

浮き袋を持ち、青い触手に刺されると電気が走ったような強い痛みを感じる。海水をかけて触手を洗い落とす。

※イラストはそれぞれの対処法を示しています。



ハブクラゲ

6～9月にかけて多く発生する。触手に刺胞と呼ばれる毒針があるため、なるべく肌の露出をさせて遊泳するようにする。

P8-9の写真は全て©沖縄県衛生環境研究所

※ここでの生物5種の対処法は同じ



オニダルマオコゼ

背びれに棘があり、根本にハブの30倍以上の毒がある。岩や石に擬態しているため、遊泳時は十分周囲に注意する。



- ① トゲを抜く → ② 真水で洗う
- ③ 病院搬送までの間、患部をお湯につける

重症を予防するために「肌の露出を避けて泳ぐ」が基本！

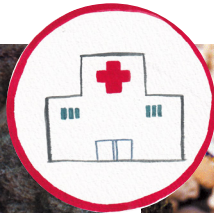
悪気はないんだけど、いきなり人間が来るとラブルにも...

※いずれの場合でも、対処後は病院へ



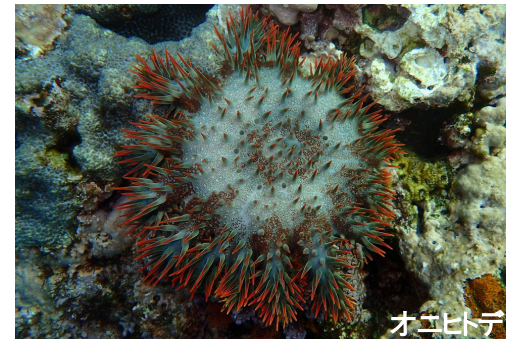
アンボイナ

赤茶色の網目模様がある巻貝。神経毒のある毒銜をもつ。緊急性があるため、すぐに医療機関へ行くこと。



ヒウモンタコ

潮だまりや岩の下に生息している。刺激を受けると青い円光の模様が浮かぶ。タコは素手でつかまないようにすること。



オゴヒトデ

全身棘で覆われていて、テーブルサンゴや岩の下に生息している。刺されると猛烈な痛みがある。



ガンガゼ

サンゴ礁や岩場に生息し、20～30cmの長い棘を持つ。もろく折れやすいため、刺されると棘が抜けにくい。



ウミヘビ

ウミヘビはコブラの仲間で、強い神経毒をもっており、噛まれると体が麻痺して動けなくなるため、すぐに医療機関へ搬送。

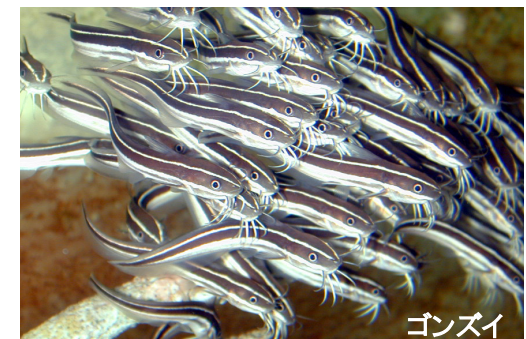
ウミヘビの方から近寄ってくるがあっても、ウミヘビから攻撃してくることはほとんどないので、刺激しないようにする。

生き物の通つかな距離を伝えよう！



ミノカサゴ

背びれ、腹びれ、尻びれに毒がある。棘を取り除き、傷口を清潔に保つ。



ゴンズイ

岩礁や砂地の浅い海に生息し、集団で行動する。背びれと胸びれに毒棘があり、刺されると数日間激痛が続くこともある。

海に好かれよう遊び方をしよう！

● 日焼け止め

さまざまな日焼け止めが販売されていますが、紫外線吸収剤である「オキシベンゾン」「オクチノキサート」は、サンゴの幼生の成長を妨げたり、サンゴの白化を促すという報告がされています。自然由来成分で作られたものを、適量使用するようにしましょう。



● くもり止め

「台所の食器用洗剤でマスクを洗う」というのはもってのほか。洗剤を直接海に流す＝海を汚すことにつながります。
(参考) スプーン 1 杯の油を浄化するために必要な水の量は、浴槽 10 杯分 (300 l) と言われています。

ちょっと！台所じゃないよ！



● 遊泳 (フィンキック)

サンゴを折ってしまう最も大きい影響は、不慣れなフィンキックによるものです。サンゴは非常にもろく、成長に長い年月がかかります。不慣れな場合はむやみに着用することをやめましょう。



◎ マイクロアトール

塊状のサンゴ群体の頂上部が、最干潮時の潮位に合わせて擦り切れ、岩になっている状態をマイクロアトールと呼びます。この上には立つことが出来るので、シュノーケル時に見つけたらラッキー！

● 遊泳 (視線・触れる)



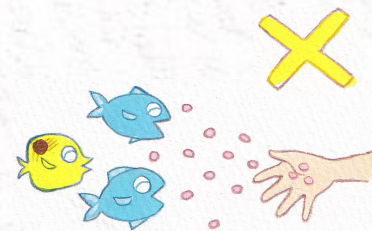
魚類は人間の視線をストレスに感じてしまいます。また、海洋生物に触れることは、病気に感染させてしまう恐れがあるので、触れない距離で観察するようにしましょう。

(水族館では、人の視線を感じないようにガラスが設計されています。)

えっ「餌付け」は何でいけないの??

海で暮らす生き物が何を食べるのかは、生まれつき決まっています。自然のものを自分の力で食べるのが本来の姿。その世界を壊さないように配慮しましょう。

- ① 海の生き物たちは、餌付けをされると自分のなわばりや巣を離れ、捕食者に狙われやすくなります。
- ② 藻類を食べる魚が餌付けされると、岩やサンゴに付いた藻類を食べなくなります。その結果、藻類が成長し続け、サンゴの表面が覆われてしまい、サンゴの死にも繋がります。



餌付けには、海の生き物の行動を変化させ、サンゴ礁やサンゴ礁によって支えられている生き物たちの生態系を崩してしまう影響があります。

⚠ 潮の満ち引きについて

海の潮位は常に一定ではありません。1日に2回、ゆるやかに高くなったり低くなったりします。その日で最も低い潮を「干潮」、高い潮を「満潮」と言います。

干潮時に遊んで深いところへ行ってしまうと、潮が満ちた時に帰れなくなってしまうことも。。海を満喫するには地元のエコツアーガイドを活用しましょう。

与論島に住むサンゴと植物の紹介

みなさんのイメージするサンゴって、どんな形のものでしょうか？
サンゴにもいろいろな種類や形のものがあります。

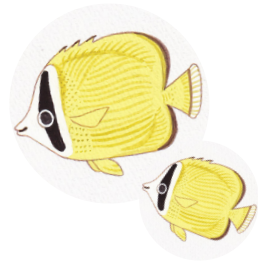


テーブル状のサンゴ 枝状のサンゴ 塊状のサンゴ 被覆状のサンゴ

塊状や被覆状のサンゴは、ほとんどの海域に生息しています。このようなサンゴは、サンゴと認識されずに踏まれることが多いので、遊泳やシュノーケルの際には十分気をつけましょう。また、枝状のサンゴは特に折れやすいサンゴなので、触れないよう意識しましょう。



ウミヒルモ サボテングサ リュウキュウスガモ




海に生息する植物のうち、根っこがあるものを海草と呼びます。
特にウミヒルモは柔らかい根っこであるため、ウミガメに好まれる植物です。
もし、お食事シーンを見かけたら、そっと見守ってあげましょう。



⚠️ ファイヤーコーラル ※アナサンゴモドキ属

先端が白っぽく、全体は黄褐色のサンゴ。
触れると**火傷したような激しい痛み**がはしることからファイヤーコーラルと呼ばれています。

枝状や板状など、形状での区別ができないため、色で判断するのが望ましいです。



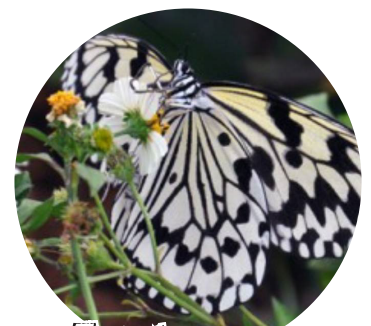


オオゴマダラの舞う島

白黒のまだら模様が特徴的な国内最大級の蝶「オオゴマダラ（大胡麻斑）」。黄金のサナギから成虫になり、羽を広げるとその大きさは13cmにも及びます。

東南アジア広域に分布し、日本では奄美大島の東側に位置する喜界島、与論島以南の南西諸島に生息しています。

与論島では、このオオゴマダラの住む環境を守るため、蝶の食草であるホウライカガミなどを増やす活動が行われています。



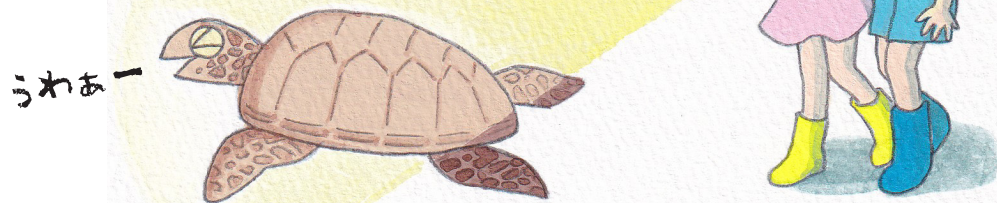
日本最大級のちりょうちよ!

自然環境への配慮

● 生き物への影響（ライト・光害）

与論島の周辺海域に多く生息するウミガメは、光にとっても敏感な生き物です。

特に、産卵を行う5～8月は砂浜でのライトの使用を控え、車のライトはロービームにするなどの対策をしましょう。



● 直火による影響



全国的に直火禁止のフィールドが増えていますが、その理由は、残った炭の跡などで、次に来た人が不快な思いをする…というマナーだけの問題ではありません。

熱により、土や砂の中にいる微生物を殺してしまう（＝生態系を壊してしまう）という大きな環境負荷を与えてしまうことに繋がります。

与論島からのメッセージ

「キレイな海」

でも、与論島の魅力はそれだけではありません。

その海を守ろうとする人々の姿、島独自の言葉や文化など…。一方で、この小さな島も地球規模の問題に直面しています。

海水温の上昇、巨大な台風や豪雨、サンゴや魚の減少。そして陸と海、私たちの生活とのつながり。

自然との距離が近いこの島だからこそ、そうした影響、自然（地球）が発しているメッセージを感じることもできるかもしれません。

あなたならこの島から、自然の中からどんなメッセージを受け取りますか？

自然豊かな与論島。

そこは「観光地」である以前に、誰かの（たくさんの生き物にとっての）「居住地」。

そこへ「観光」に来ている、「お邪魔します」という感覚をもつこと、その土地や歴史、自然への敬意を忘れないこと。

この島・地域が、そして地球が持続可能であるために、そうした想いや行動が大切であるように思います。

この島を訪れてくれたあなたに素敵な思い出ができますように。そして、次に来る方にもそんな素敵な場所を残していけるように。

人も自然も楽しい旅へのご協力をお願いいたします。



旅にもエコロジー。